

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	3年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（3月30日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの学習ニーズと学力の状況に応じた多様で柔軟な教育課程編成及び確かな学力の育成を図るため組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②基礎・基本の定着に向けて学び直しや他者との協働的な学びを積極的に取り入れるとともに、様々な学習支援の方法について研究を進め、生徒一人ひとりに向き合い社会に対応できる力を培うことが出来る教育実践に取り組む。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体的な活動、協働的な取り組みにより、問題を解決する力を育む。</p>	<p>①確かな学力の育成のため、教科横断的な授業改善を継続して行う。主体的に学習に取り組む態度の評価改善に伴う授業改善に取り組む。</p> <p>②ア教科横断的な学び直しについて取り組む。</p> <p>②イ主体的に学習に取り組む態度の評価改善に取り組む。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の積極的な参加を促すとともに、創造的な活動に主体的に参加できるように促す。</p>	<p>① 研究授業を企画・運営し、研究協議を教科横断的に行うなど工夫した授業改善を行う。</p> <p>②ア各教科の計画を全体で共有し、効果的な学び直しを行う。</p> <p>②イ評価改善に関わる講演会を開催する。また、教科会において改善を図る。</p> <p>③全校生徒が参加できる行事を計画し、生徒が主体的に取り組めるよう、魅力ある行事でさらに活性化をする。</p>	<p>① 研究協議や生徒による授業評価を用いて組織的な授業改善ができたか。</p> <p>②ア生徒による授業評価を用いて組織的な授業改善ができたか。</p> <p>②イ教科会において改善を図ることができたか。</p> <p>③生徒主体の行事の生徒参加率が上昇したか。</p>	<p>①年間計画の周知を行い、教科横断的な研究授業を行った。</p> <p>②ア計画表を掲示し、全体に意識付けすることができた。</p> <p>②イ項目7の「かなり当てはまる」という回答は7月の29.8%から12月は38.6%に増加した。</p>	<p>①担当者だけでなく科目を担当する教員で共通し取り組めるような仕組みを作っていくことが課題である。学校全体での取り組みが必要がある。</p> <p>②イ同上</p>	<p>・年間計画の周知を行い、教科横断的な研究授業を行ったことは評価できる。</p> <p>・計画票を掲示し、全体的に意識付けできたこと及び②イ項目7の「かなり当てはまる」という回答は7月の29.8%から12月が38.6%に増加したことは評価できる。</p> <p>・教員数の減少がなされていく中において、専門教科にとらわれず、学校全体で教科横断的な授業改善を図っていただきたい。</p> <p>・主体的に学習に取り組む態度の評価をどのような姿を想定しているか、教科の中で具体的な“A”の姿、“B”の姿を年度当初確認することが必要と思われる。</p> <p>・学校規模が小さくなりやりにくい面もある中で、工夫された授業を継続的に実践されていることにより、一定の成果があると思います。</p>	<p>・教科横断的な研究授業を実施でき、職員の人数が少なくなる令和8年度の授業研究、授業改善への取り組みに活かせる取り組みとなった。</p> <p>・学習に取り組む態度の評価について、研究と実践が課題となる。</p> <p>・人数の少ない中で、開催する行事の検討に協働的な学びを実践できるように計画する。</p>	<p>・研究を継続し、さらに非認知能力など研究を深め、授業改善へ取り組んでいく。</p> <p>・評価について研究を続ける。</p> <p>・生徒会活動を中心に、少なくとも充実した行事を実施できるように生徒とともに考え、実行していく。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①生徒理解に基づく「温かくなかつかい毅然とした生活支援」と教育相談等の個に応じた支援体制の充実を図る。</p> <p>②部活動の積極的な参加を促し、活動を通して、自主自律の精神や責任感、連帯感を涵養する</p>	<p>①ア生徒の基本的な生活習慣の確立のために、職員間で共通の認識を持ち、粘り強い指導・支援を継続して行う。</p> <p>①イ生徒一人ひとりの困り感やニーズを把握・課題を解決させるために、組織的な支援体制を充実させ情報を共有化して支援にあたる。</p> <p>②自主自律の精神や責任感を持たせ、良好な人間関係を構築させるために、部活動の積極的な取組を支援し、きめ細やかに指導する。</p>	<p>①ア規範意識の醸成を目指し、全職員が共通認識を持ち、生活支援体制を構築する。</p> <p>①イ教育相談の充実のため、SSW、SCとの連携、職員間での問題意識の共有と共通認識により取り組む。また、ワーキンググループの編成など組織的な取組をさらに充実していく。</p> <p>②部活動では、他校との合同チームによる大会参加など、活動する方法の工夫により、参加率を高める。</p>	<p>①ア生徒理解に基づいた生徒指導・支援を継続することで、指導件数が減少したか。</p> <p>①イ外部機関を含めた支援体制を組織したか。</p> <p>②部活動の参加率の上昇および継続数が増加したか。</p> <p>合同チームなど大会の校外活動の実施数が増加したか。</p>	<p>①ア特別指導の件数は減少した。</p> <p>①イ外部機関を含めた支援体制をSC、SSWとともに組織的に機能させることができた。SC、SSWの相談数は28%から35%に増加、解決数も増加した。</p> <p>②学年減により、参加数が減少傾向ではあるが、合同チームなどの校外活動の実施数は維持している。</p>	<p>①特別指導件数は減少したが、様々な支援を必要とする生徒が多く、より外部機関を含めた組織的に支援体制を機能させる必要がある。</p> <p>②来年度は3年生だけとなり、活動時間の検討等により、参加率を維持できるよう工夫が必要である。</p>	<p>・特別指導の件数は減少したことは、喜ばしいことである。</p> <p>・外部機関を含めた支援体制をSC、SSWとともに組織的に機能させることができた。SC、SSWの相談件数は28%から35%に増加、解決数も増加したことについても、組織的に機能させ、相談件数も増加したことは、評価に値する。家庭での指導を含め、粘り強い指導を継続していただきたい。</p> <p>・次年度は、3年生だけの活動となるが、合同チームなどの工夫を図っていただき、活動を維持していただきたい。</p> <p>・全校の人数が減ることにより、生徒は大人が自分のことを見てくれていると感じられる機会が増えたのではないだろうか。一方教員数が減るところで、次年度は生徒にとってキーパーソンが異動してしまった場合の引継ぎが必要。</p> <p>・生徒理解を丁寧に行い、粘り強くご指導ご支援されていることと存じます。生徒の様子からもうかがい知れます。</p>	<p>・生活指導や生徒支援について引き続き職員の共通認識をもって粘り強く支援に取り組む。</p> <p>・教育相談の充実のために職員の共通認識や問題解決への外部機関等の協力を有効に活用する。</p> <p>・部活動および生徒会活動について他の学校や地域との連携した活動を考え、実施していきたい。</p>	<p>・日々の会話、打合せで職員の共通認識を確認しながら支援に取り組む。</p> <p>・SSW、SCを含めた職員間での問題意識の共有と生徒の成長による喜びを共有し、同じ方向で取り組む。</p> <p>・人数が減る中で合同チームなど他校等との連携した活動を実践する。</p>

	視点	3年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導 ・支援	①生徒一人ひとりが、生涯にわたる多様なキャリア形成を見据えて、「こうしたい、こうありたい」という志を持つ生徒に育てることを目指し、進路指導の充実を図る。	①生徒一人ひとりが、自分の生涯を見据え、主体的にキャリア形成を考え、行動できる能力と態度を育成する。	①総合的な探究の時間を中心に、卒業後の自分をイメージし、自らの進路を主体的に選択し、行動できるようキャリア教育や外部を招いたガイダンス等を行う。  ①進学・就職等の生徒の進路希望実現に向けて、進路実現プロジェクト講座を設け、生徒の活動を支援する。	①生徒にアンケートを実施し、個々の進路指導や進学支援に対し、満足したかどうか。  ①生徒の進路希望実現に向けて、進路実現プロジェクト講座を設け、生徒の進路活動を積極的に支援した。	①総合的な探究の時間中心に、自らの進路を主体的に選択できるよう、キャリア教育や外部講師によるガイダンス等を実施した。  ①生徒の進路希望実現に向けて、進路実現プロジェクト講座を設け、生徒の進路活動を積極的に支援した。	①来年度は教員数が半減する中、現行と同じ活動を維持できるかどうかを課題である。 ①進路実現プロジェクトの就職者向け講座に関して、講座を受講した生徒は概ねスムーズに就職活動ができたが、受講しなかったものの、途中進路変更した生徒の対応が大変であった。生徒が進路決定をなるべく早くするように支援していきたい。	・総合的な探究の時間を中心に、自らの進路を主体的に選択できるよう、キャリア教育や外部講師によるガイダンス等を実施したことは評価できる。 ・生徒の進路希望実現に向けて、進路実現プロジェクト講座を設け、生徒の進路活動を積極的に支援したことも評価することができる。 ・2026年度においては、教員数が半減することであるが、生徒の進路実現のために手厚い指導を図っていただきたい。生徒の進路意識が揺らぎやすい時期なので、臨機応変な支援を図っていただきたい。 ・自らの進路を考える機会を持つことが効果的であった。どれだけ生徒が主体的に取り組めるようにできるかの支援を考えていく。 ・生徒の進路支援のための「総合的な探究の時間」の取り組みが継続できるように期待しています。	・職員の人数が減る中で、生徒の進路実現への支援を手厚く取り組めるよう工夫する。  ・大学や専門学校での技術や知識を身につけること以上に人材という視点が重要になることを視野に入れたキャリア教育を研究する。  ・人の在り方、生き方について学びを持たせる。	・外部講師や校外で実施されるガイダンス等への参加を充実させる。  ・人の在り方や生き方について考える機会を設けるなど、生徒の意識が高まるよう取り組む。
4	地域等との協働	①地域との協働を大切に、地域に信頼される学校づくりを進める。  ②ボランティア活動への参加を拡大し、社会性や思いやりの心を育み、自己肯定感を高めさせる。	①地域と連携した活動に積極的に参加を促し、地域の人たちとの交流を進める。  ②清掃活動に主体的に参加させ、取り組みやりの心を育み、自己肯定感を高めさせる。	①地域の自治会や町内会との行事を積極的に広報し、参加者を増やす。  ②PTAからの参加や支援を頂き、参加者の拡大を図る。	①地域の行事の参加者数が増加したか。  ②地域の行事の参加者数が増加したか。	①地域貢献デーにおいて地域清掃を全校生徒で行った。  ②地域清掃にボランティア生徒と参加した。	①最後の年として地域との共同の場となるような新たな取り組み。  ②生徒へボランティアへの参加の意識付けをどうするか？	・地域貢献デーにおいて地域清掃を全校生徒で行ったことは評価できる。 ・地域清掃にボランティア生徒と参加したことは評価できる。 ・一人でも多くの生徒が参加できるように、広報や参加への仕向けの工夫をお願いしたい。 ・他学年とのかかわりが減ってしまうところを地域とのかかわりを持たせるところで補う。平戸永谷川のクリーンアップ活動で、何人かが小学生の花植え活動に参加するのよいのではないか。 ・清掃活動などを通して、地域とのつながりを意識させる取り組みについては、ぜひ継続してほしい。最後の年にはなるが、中高連携も面白いと思います。	・平戸永谷川クリーンアップや校外清掃を長年にわたり継続して実施できている。これらを人数が減っていく中で、続けていく。  ・校外の組織や地域の人たちとの連携を考えて実践していく。	・積極的な生徒の参加を促す。  ・継続して地域貢献に、職員と生徒がともに取り組んでいく。
5	学校管理 学校運営	①「生徒」「保護者」「教職員」の三者が誇れる学校づくりを目指し、環境美化の観点から様々な課題改善に取り組む。  ②教員が生き生きと働ける職場とし、ワークライフバランスを推進するために教員の働き方改革を推進する。	①環境美化の観点から整理整頓や清掃の活動に積極的に取り組ませ、生活で登校の意欲がたかまるような学校の環境を整える。また完校に伴い、空き教室などの有効活用をする。  ②活き活きと働ける職場をつくり、職員が一所懸命に働き、結果として生徒・職員のウェルビーイングが向上するとともに長時間勤務が是正される。	①各クラスの清掃や整理整頓など、環境美化に努めるとともに、PTAと連携し校内外の美化活動に取り組む。  ②グループや学年を超えて、仕事に関係する職員一人ひとりが積極的に取り組み、同僚として安心と仕事のやりがいや喜びを共有できる働き方を推進する。	①美化の参加者の割合は高まったか。空き教室の有効活用ができたか。  ②ストレスチェックの結果が良好かどうか。良くないストレスとなる長時間の勤務をすることがあったか。	①PTAの協力で校内美化が図られた。空き教室を集会室や、トレーニングルームとするなど有効活用できた。  ②ストレスチェックの結果はたいへん良好であった。	①完校にむけて、片付けをしつつ、過ごしやすい環境が課題になる。  ②これからも同僚や上司の支援などを大切にし、安心して働ける職場づくりに全職員が取り組んでいく。	・PTAの協力で校内美化が図られた。空き教室を集会室やトレーニングルームとするなど有効活用できたことは評価する。 ・完校に向けて、自分たちできれいにし、きれいに使い、片づけていくという意識で取り組んでいただきたい。 ・次年度の年度末は、卒業への取り組みと完校の取り組みが重なり大変になると思われるPTAだけでなく、地域の力も借りられるとよい。 ・環境整備を進める取り組みにより、活動の幅が広がっているのではないのでしょうか、よい取り組みと思います。 ・ストレスチェックの結果が神奈川県 No.1は大変良い。	・校内の整理、空き教室の利用など、さらに検討を重ね、より充実した時間を設定していく。  ・ストレスチェックの結果を生かし、令和8年度も良い職場環境となるよう職員全体で取り組む。	・校内の美化について生徒一人ひとりが意識して美化活動ができるよう促す。  ・風通しの良い、職員間では同僚とともに生徒の成長を喜べる職場づくりに努める。